

公益社団法人 千葉青年会議所
2017 年度 基本方針

2017 年度理事長予定者
佐藤 保彦

基本理念

失敗は挑戦をやめたときである。
意識して退路を断ち、元気澆刺に壁にぶつかっていこう。
さすれば、そこに成長があり、道はきっと拓ける。

スローガン

成長

～退路を断って、まずは行動！～

基本方針

1. メンバーにとっての JC 活動の充実化
2. なくてはならない組織の活性化
3. 地域にとっての JC の存在意義
4. 「千葉」の明日をつくる青少年の健全育成
5. 青年会議所らしい、まちづくり

～はじめに～

本年は、大治元年（1126年）に千葉常重が玄鼻付近に館を構え、都市としての「千葉」が誕生した千葉開府から890年という節目の年です。そして、2020年東京オリンピック・パラリンピックにおいてはそれぞれ3競技、4競技がわがまち「千葉」で開催されることとなりました。利便性の高い「ハード面」（地域資源）によって国際的大型イベントが続々と集まる一方、そこに住む市民が「千葉」の魅力を改めて実感・発見することで、「千葉」に誇りを持ち、地域を愛する心、訪問者をおもてなしする心（「ソフト面」）が育まれることによって、わがまち「千葉」のアイデンティティ（千葉らしさ）が確立され、「住みよい千葉」「訪れてたのしい千葉」になっていくものであると考えます。

～青年会議所とは～

1949年、明るい豊かな社会の実現を理想とし、責任感と情熱をもった青年有志による東京青年商工会議所設立から、日本の青年会議所（JC）運動は始まりました。共に向上し合い、社会に貢献しようという理念のもとに各地に次々と青年会議所が誕生し、1951年には全国的運営の総合調整機関として日本青年会議所（日本JC）が設立されました。

そして、わがまち「千葉」にも1960年7月に全国195番目のLOMとして千葉青年会議所が設立され、2017年度は創立58年目を迎えます。「個人の修練（トレーニング）」、「社会への奉仕（サービス）」、「友情（フレンドシップ）」の三信条のもと、互いに切磋琢磨することで社会を生き抜く力を身につけ、地域経済や社会に貢献しうる人材を常に輩出しつづける組織として、さまざまな運動を展開してまいりました。

～「なぜ、JC活動をするのか」（メンバーにとってのJC活動の充実化）～

家庭や職場で、「なぜ、JC活動をするのか」と聞かれたときに、明確に、そして胸を張って答えることができるメンバーがどれだけ居るだろうか。今だからこそ、この問題に真っ向から向き合い、「われわれにとっての青年会議所の存在意義」について真剣に考える必要があると考えます。これを腹に落として活動するのと、曖昧なままで活動するのではモチベーションや充実感に大きな差が生まれると考えます。

企業における我々の活動は経済活動であり、目的（ゴール）は経済活動を通じた社会貢献であり、株主への貢献であります。この活動において、係わる人は利害関係が存在するステークホルダーのみであると言っても過言ではありません。一方、JC活動の目的は「社会への奉仕（サービス）」であり、活動に係わる人は日々の経済活動に係わる人とは全く異なります。この「社会への奉仕（サービス）」という答えのない目的（ゴール）に対して、メンバー間で信頼感を育み、汗をかきながら、ひとつの事業というカタチを実現させるプロセスこそが「個人の修練（トレーニング）」であり、結果的にリーダーシップの醸成や、

一生涯の「友情（フレンドシップ）」を育むことにつながると考えます。

20代は仕事を覚えるフェーズ、30代はインプット（吸収）のフェーズであると考えます。この時期にJC活動を通じてインプットしたことが、活動をしている時は断片的かもしれないが、卒業後、様々な経験とともに断片的だったものが徐々に有機的に融合し、地域や企業でなくてはならないリーダーに成長していく礎になるものであると考えます。

～なくてはならない組織の活性化～

青年会議所の組織は20歳から40歳までの青年経済人で構成され、組織の活性化や事業の斬新性を保持するため、単年度制の組織運営を行っております。年齢制限によって常に若々しいエネルギーが保たれ、組織の維持や運動を活発化させる効果を期待するためには、若い新入会員獲得の努力を怠ることができないのは言うまでもありません。しかしながら、最初から青年会議所に興味を持っている人を探す会員拡大活動は、どこか狭所的になりがちです。量は質に転化するという言葉の通り、会員拡大活動の目的を、「20歳から40歳までの青年会議所に入会する有資格者に、千葉青年会議所の活動や存在を周知すること」とし、よりダイナミックで、量で勝る会員拡大活動をしていく必要があります。

～「なぜ、JC運動が必要なのか」（地域にとってのJCの存在意義）～

われわれ青年会議所は行政でもなければ、営利団体でもありません。「明るい豊かな社会の実現」を目指す青年会議所は、地域社会での運動がその基本となります。青年会議所は、地域社会に信頼され、必要とされる団体でなければならない。そういった意味で、これまで幾多の先輩によって築き上げられてきた歴史の上に、今や地域を代表する団体になったことに感謝をする必要があります。

しかし、時代の変革と共に、地域社会が欲求するものは多様・高度化しておりそれぞれの地域に生活している人々との間にもっと強い連帯感と愛情を育んでいく市民参加の、市民主導型の地域社会づくりに努めなければなりません。又、その為には他の地域団体との交流を深め、JC運動の幅を広げていく必要があります。

～「千葉」の明日をつくる青少年の健全育成～

われわれの青少年時代、わがまち「千葉」の埋め立てが完了し、埋め立てられた土地に、ビルが建ち並んでいく姿を毎日見ておりました。毎年多くの転校生が「千葉」にやってきて、急速に様変わりしていくコミュニティの中でわれわれは育ちました。わがまち「千葉」が成長期から成熟期へ移行する過渡期である現在、青少年を取り巻く環境も様変わりしました。インターネットやソーシャルネットワークを通じて、フィルタリングせずに青少年

へ情報が流入することによって、親や教師の予期しない方向への青少年の成長や突発的な行動、また、青少年が犯罪被害に巻き込まれるなど悲しいニュースが後を絶ちません。

この混沌とした環境の中で青少年を健全に育成するためには、まずは青少年一人ひとりが大きな夢（未来）を描くことです。夢を抱くことで日々の時間の使い方や勉強に意味付けがなされます。そして、夢への推進力を高める為に、小さな成功体験の積み上げによる自己確信性の醸成が重要であると考えます。この自己確信性が養われ、成長エンジンとなれば、青少年は勝手に成長していくものであると考えます。また、夢への実現は当然、青少年ひとりの努力だけではなし得ず、周囲の環境が重要となります。一番近くにいる親が伴走者となって、社会性をもった青少年を育てていく必要があります。

～青年会議所らしい、まちづくり～

多くの団体がまちづくり活動を行うようになった昨今、われわれは青年会議所だからこぞできるまちづくりを行い、広く伝播していく中で JC 運動への参画者や応援者を増やしていく為には、地域のニーズと現状を的確に捉える必要があります。他団体やメディアとの交流を積極的に深めながら、「千葉」らしさや「千葉」の魅力を改めて発見できるまちづくり事業を実施します。

～おわりに～

わたしは社内の先輩からの勧めもあり、自ら青年会議所に身を置くことを決意し、約4年が経過しました。経験不足感は否めませんが、短い活動期間で多くの経験や気づきをいただくことができました。青年会議所は人生最後の学び舎であると言われる。様々な運動や事業を通じて多くの機会が与えられ、その成功や失敗から学びを得ることができます。

では現在、メンバー全員が千葉青年会議所のメンバーであることに誇りを持ち、JC活動においてどれだけの充実感や達成感を得ているのだろうか。また、その経験をエネルギーに変え、「家庭」「会社」「青年会議所」のどれも手を抜くことなく、シナジー効果を出しながら、大きく成長していけるのだろうか。2017年のスローガンを「成長～退路を断って、まずは行動！～」とかかげ、1年間メンバーとともに活動してまいります。